

歌數ふるに違なし涼順も此地に遊んで紫藤の賦を作り樓臺空く僧侶の室となりぬるを歎きしは文粹にのせけりこは舊野山とも田獵の地にして嵯峨帝始て御狩ありてより文徳清和陽成の三帝はおこたらせ給ひしが光孝帝かさねて興し給ひ御幸なりぬあるひは此野へ官人を遣されて松虫鈴虫などをとらせ給ふに其とき野に虫屋を造り音よき虫を撰て奉りけり

〔禁秘御抄下〕虫

松虫鈴虫類人々進之或被召賀茂社司堀川院御時頭以下向嵯峨野誠有逍遙是給虫屋向選虫奉之

〔源平盛衰記 二十五〕小督局事

仲國明月ニ鞭ヲアゲテ西ヲ指テ浮岩行アユマキノテ略中内裏ヲバ亥刻計ニ出タレ共スガヲモモ通夜嵯峨野ノ原ニ迷

ツ、秋ノ夜長シトイへ共内裏へ歸リ參リタレバ夜ハホノムト明ニケリ

〔風雅和歌集五〕後宇多院大覺寺におはしましける頃七夕七百首歌の中に野女郎花を

前大納言實教

いくとせかさか野の秋の女郎花つかふる道になれてみつらむ

栗栖野

〔伊呂波字類抄久儀〕栗栖野

〔閑田耕筆一〕栗栖野山城に二所人皆えれり契冲阿闍梨和名抄を引て愛宕郡栗野久留須又宇治

郡小栗留須所の名凡二字なれば栗野は栖字を略してくるすと野の字は加へながらよまざる

也たゞし假付の乃字落たるにや小栗は小栗栖なるをこれも栖字を略てよみ付たる也くる須

の小野と歌にみゆるは皆愛宕郡なるをよむ唯新撰六帖に光俊ふる雨にくるすの小野の小鷹

狩ぬれしぞ家の始也けるとよめるは宇治郡也事蹟云是は故三代實錄廿六又四十二延喜式第

十四主水司式氷室一所と見えたる又源氏物語に見えたるも俱に愛宕郡栗栖野也など勝地一